

令和 2 年度
公益財団法人復康会
社会復帰事業部
業務年報

目次

- I 概況
 - 1. 沿革
 - 2. トピックス
 - 3. 事業所一覧
- II 基本方針
 - 1. 組織・会議
 - 2. 職員状況
- III 運営報告
 - 1. 事業部全体
 - 2. 各事業所
- IV 地域貢献活動
- V 教育研修
- VI 令和 3 年度 事業計画

I 概況

1. 沿革

昭和 56年 5月(1981)	精神障害回復者社会復帰施設「はまゆう寮」開所
平成 5年 6月(1993)	沼津中央病院精神障害者共同住居「カーサかぬき」開所(家族会運営)
平成 9年 4月(1997)	グループホーム「ふじみ」開所
平成 14年 2月(2002)	田方・ゆめワーク開所(通所授産施設、地域活動支援センター)
平成 14年 4月(2002)	「コーポ狩野」福祉ホームB認可
平成 15年 4月(2003)	地域生活支援センター「なかせ」開所 地域生活支援センター「いとう」開所
平成 16年 4月(2004)	サポートセンター「ほっと」開所 グループホーム「ふじみⅡ」開所
平成 17年 10月(2005)	「カーサかぬき」から法人運営としてグループホーム「カーサ岡の宮」開所
平成 18年 3月(2006)	サポートセンター「ほっと」移転
平成 18年 10月(2006)	障害者自立支援法に基づき各名称をサポートセンターゆめワーク・なかせ・いとうに変更
平成 20年 4月(2008)	サポートセンター「いとう」伊東市観光会館へ移転
平成 20年 5月(2008)	就労継続支援B型事業所「就労支援事業所かのん」開所
平成 21年 4月(2009)	小規模作業所「ワークショップまごころ」開所
平成 22年 4月(2010)	「ワークショップまごころ」就労継続支援B型事業所へ移行 従たる事業所「クリーム・ド・クオーレ」開所 サポートセンター「ほっと」移転
平成 23年 4月(2011)	サポートセンター「なかせ」三島分室開所
平成 24年 4月(2012)	「就労支援事業所かのん」事務所・作業所移転 通所授産施設「田方・ゆめワーク」就労継続支援B型事業所へ移行
平成 27年 4月(2015)	サポートセンター「なかせ」長泉分室を長泉町役場内に開所
平成 28年 3月(2016)	「コーポ狩野」新棟完成・移転、ケアホームコーポ狩野からグループホームコーポ狩野へ名称変更
平成 29年 5月(2017)	サポートセンター「いとう」熱海駅前の熱海第一ビルに移転
平成 30年 4月(2018)	サポートセンター「ほっと」富士市日乃出町へ移転 サポートセンター「なかせ」三島分室 2階から4階へ移転 「ワークショップまごころ」同ビル2階に作業所増設
令和 2年 4月(2020)	サポートセンター「なかせ」三島分室を組織改編、名称変更し、サポートセンター「ひまり」開所
令和 3年 3月(2021)	サポートセンター「なかせ」長泉分室閉所

2. 令和2年度のトピックス

①サポートセンターひまり開所

令和2年4月1日

サポートセンターなかせ三島分室から
名称変更

②サポートセンターなかせ 自立生活援助事業開始

令和2年10月1日



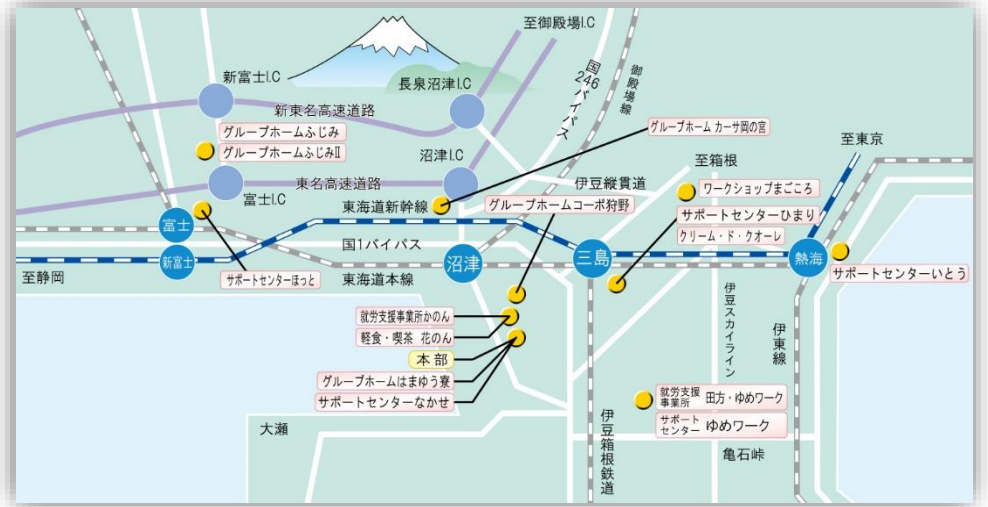
3. 事業所一覧

本部

沼津市中瀬町 17-11

〒410-0811 TEL055-931-7032

FAX055-934-1697



相談支援・地域活動支援センター

サポートセンター

なかせ 沼津市中瀬町 17-11

TEL055-935-5680

FAX055-935-6150

いとう 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F

TEL0557-82-5680

FAX0557-82-5681

ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

ほっと 富士市日乃出町 165-1 サンミック静岡ビル 104

TEL0545-32-8160

FAX0545-32-8165

ひまり 三島市一番町 7-19 高野ビル 4F

TEL055-991-1180

FAX055-991-1181

共同生活援助

グループホーム

カーサ岡の宮 沼津市岡宮 612-1

はまゆう寮 沼津市中瀬町 17-11

ふじみ・ふじみⅡ 富士市厚原 1138-6 ムーンビームス

コーポ狩野 沼津市中瀬町 24-1

TEL055-933-1038

FAX055-933-3955

就労継続支援 B 型

かのん 沼津市中瀬町 19-20

TEL055-933-8500

FAX055-933-8501

(軽食・喫茶 花のん) 沼津市中瀬町 18-28

TEL055-933-8502

ワークショップまごころ 三島市字エビノ木 4745-456

TEL・FAX055-985-2666

(クリーム・ド・クオーレ/作業所) 三島市一番町 7-19 高野ビル 1F/2F

TEL・FAX055-976-9000

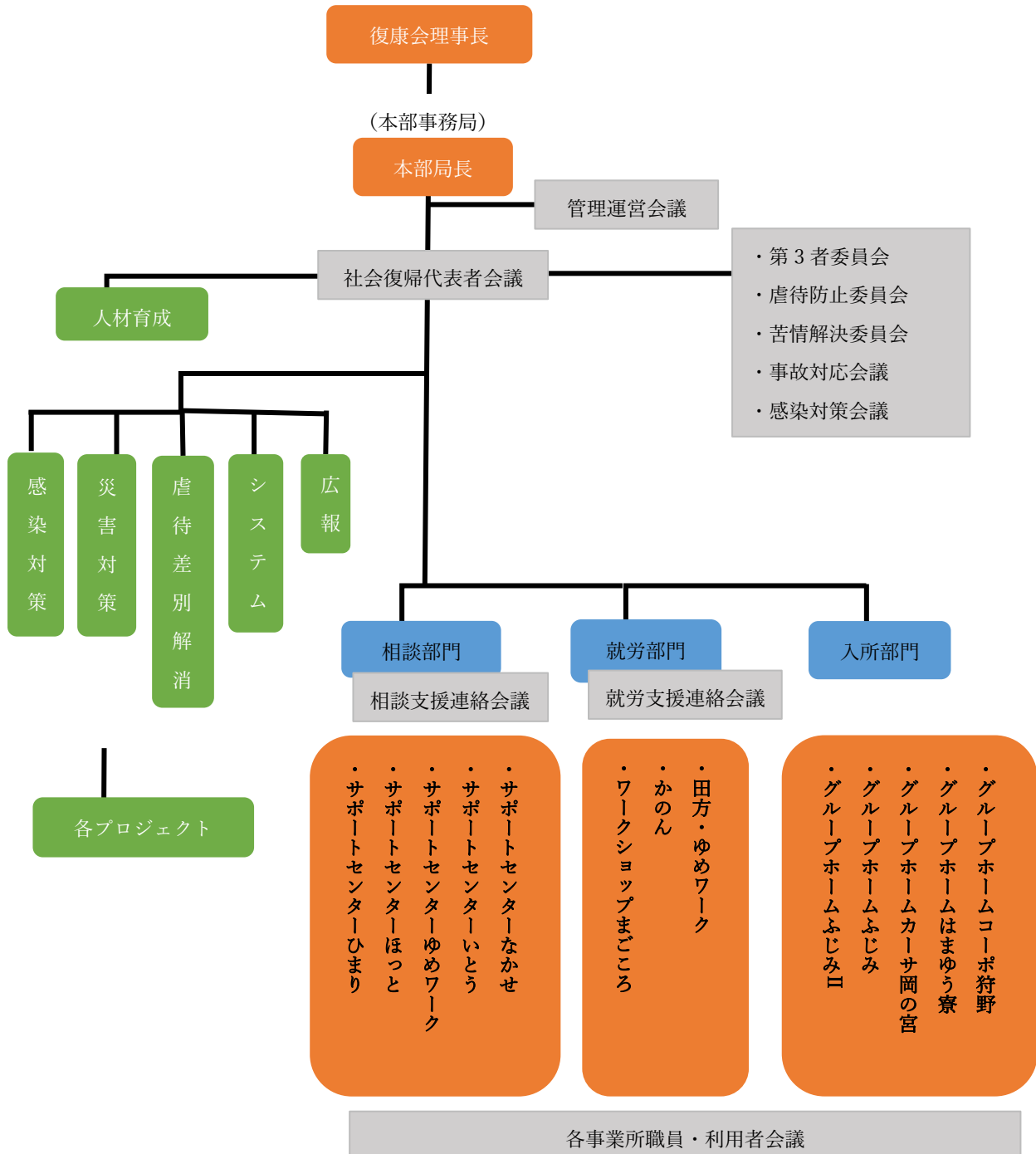
田方・ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

II 基本方針

1. 組織、会議



2. 職員状況

① 令和2年度入職者（他部署から事業部への移動も含）

正：1名

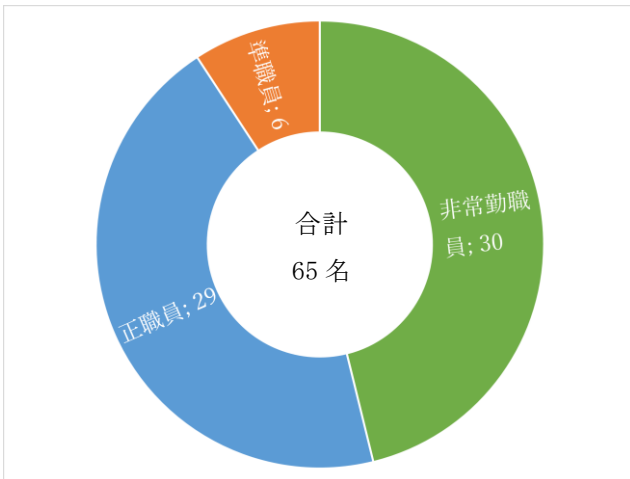
準・非：8名

② 令和2年度退職者（他部署へ異動も含）

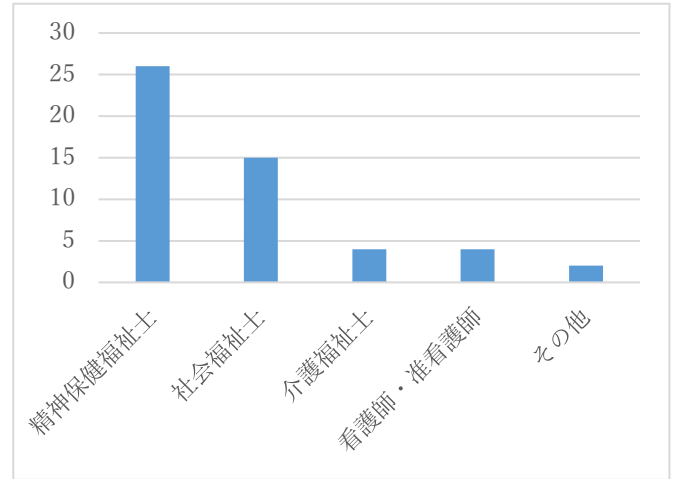
正：2名

準・非：5名

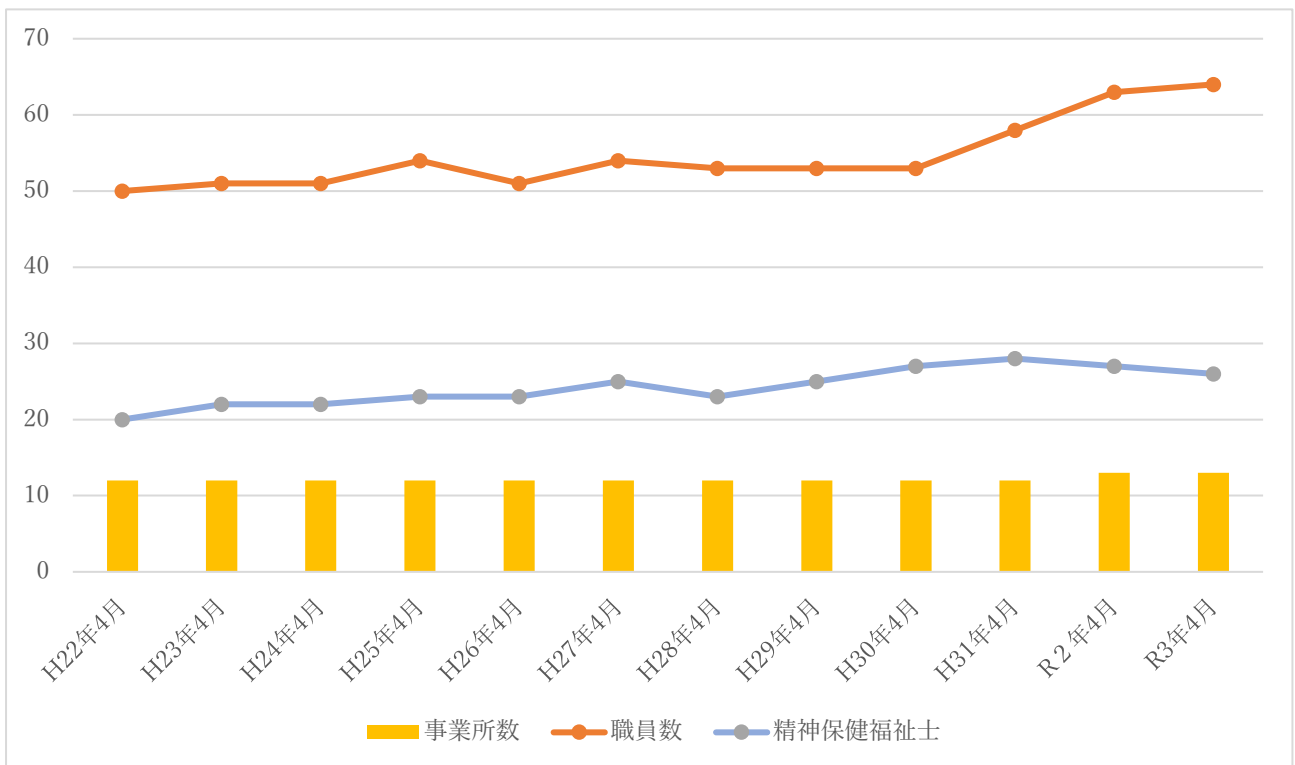
③ 正・準・非職員比



④ 有資格者（重複有）



⑤ 職員状況等経過



Ⅲ 運営報告

1. 事業部全体

令和2年度の目標達成度

運営方針

社会復帰事業部においては、全事業所が利用者の生活支援に重きを置き、サービスの向上、事業の充実を図ります。また、法人や地域に対して、障害者雇用と精神障害者のピアサポーター育成のモデルとなる取組を実践します。

重点目標

- ①利用者の特性や希望を踏まえ、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、総合的なサービスを提供
- ②各障害福祉サービス運営の見直しと適正化の検討
- ③職員の人材確保と育成
- ④サポートセンターなかせ三島分室を単体事業所として運営変更

年度初めから新型コロナウイルス感染拡大による事業の縮小や中止により、当初の目標や例年実施していた事業部全体の企画の中止を余儀なくされ、利用者・職員ともに「困惑」の1年となった。その中でも各事業所がいち早く変化に対応し長期に止めることなく事業運営が出来たのは、何より職員の「団結力」であった。コロナ禍の影響もあり、各事業所ともに利用者の減少がみられるが、利用者支援と運営の安定化の両輪をしっかりと動かしていきたい。

事業部職員人材育成

①職員研修

毎年事業所の全職員を対象に年2回集合研修を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、共通テーマに沿って事業所ごとに研修を行った。

第1回は秋に「虐待防止研修」を実施。講義と障害者虐待防止職員セルフチェックリストを職員全

員が行った。事業所単位で行ったことで、日頃の支援の振り返りを行い、今後の実践に役立てることができた内容となった。

第2回は年度末に「正しい記録の書き方」をテーマとした研修を実施。改めて記録の書き方を皆で勉強することで、要約する力、適切な表現力を身に付けることは当然であるが、その為には普段の何気ない会話の中でも、言葉の持つ重みを認識し、正しい言葉遣いが出来るようになっていかなければいけないと実感した。

②目標管理シート作成

毎年事業部全体の重点目標⇒各事業所の事業目標⇒全職員の目標を年度初めに掲げ、年2回事業所管理者と面接を行いながら目標達成を意識して全職員が業務を行う事で、個々のやりがいやスキルアップにつなげている。



虐待、苦情件数、報告会等

R2. 10. 27 (火) に復康会第三者委員の方々3名に参加していただき、「苦情・虐待防止に関する報告会」を開催した。

この1年で苦情として受け付けた13件の内容と、その後の対応や分析結果も含めて報告した。第三者委員の方々に報告させていただく事で、苦情を密室化せず、客観的な視点を確保する事で、各職員の意識も変わってくる。これからも職員皆で真摯に利用者・家族・地域と向き合って活動していきたい。



ふくむすび（事業部広報誌）

事業部全体の広報誌（月1回）を発行。今年度も12回発行。



《トピックス》

4月 サポートセンターひまり
～名称変更～

5月 サポートセンターいとう
～コロナ感染拡大への緊急インタビュー～

6月 かのん
～手作り布マスク
製作始めました～



7月 ゆめワーク
～働きたいを叶えたい～

8月 まごころ
～TV生放送でクオーレ紹介～



9月 コーポ狩野
～みんなで作る夕涼み会～



10月 サポートセンターなかせ
～ピアサポート連絡会みんなで話す
大切な時間～

11月 事業部職員研修
～虐待防止研修～



12月 苦情・虐待防止に関する報告会

令和3年

1月 新年あいさつ

2月 なかせ
～圏域地域移行部会ピアサポーター活動企
画検討会～



3月 事業部職員研修
～正しい記録の書き方～

（委託事業）

精神障害者雇用推進アドバイザー業務

精神障害者雇用推進アドバイザー事業を受託した静岡県精神保健福祉士協会から引き続き依頼を受け、アドバイザーの派遣を実施。オールしずおかベストコミュニティのコーディネーターと共に障害者雇用に興味関心のある一般企業を訪問し、精神障害者の雇用に関する普及啓発的な位置づけとなる説明等行う。コロナ禍における活動となった為例年とは異なる面もあったが、就業に関する話を入口とし、地域生活全体を考える機会となった。

駿東田方圏域スーパーバイザー事業

平成25年度より静岡県の委託を受け、駿東田方圏域（6市4町）の広域的課題の共有や、障害福祉サービスの総合的調整及び推進等に関して協議・検討する体制の整備を県と共に実施。令和2年度はコロナ禍によって各部会の会議・集合研修が自粛となり、年度当初の計画通りに進まなかった。圏域全体としては第5期障害福祉計画で目標としていた基幹相談センター、地域生活支援拠点の設置に向けた各市町の取り組みが進み、圏域スーパーバイザーとして各地域自立支援協議会への協力を行った。

2. 各事業所活動報告

グループホーム コーポ狩野

1. 目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 利用者一人ひとりの主体性・個別性に配慮した支援を実施する | ○ |
| 2. 地域交流の場を活用し顔の見える関係をつくることで、地域の精神保健福祉に対する理解を図る | △ |

・アセスメントシートを作成し、内容についてスタッフ間で協議・共有を図った。希望や目標の理解に努め、立案した支援方法を利用者丁寧に説明した。

・新型コロナウイルス感染防止の観点から町内活動が限定され、殆ど交流機会を作ることが出来なかった。地域清掃においては近隣の方との接触を持つことが出来た。

<職員配置> (令和2年4月1日付)

職 種	管理者	サービス 管理責任者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	1	6
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/専従	常/非 兼務/専従

2. 実績

今年度の新規入居者は1名で、新型コロナウイルスの感染拡大や県東部でのクラスター発生の影響も大きく、見学数名の対応はしたものの当初目標としていた2名は達成出来なかった。施設内においてはマスク着用や手指消毒等の感染対策を講じ、職員も含め徹底を図った。毎年実施している外出行事や自由に外出・外食を楽しむ余暇活動において一部制限をせざるをえない状況となり、施設内でのレクに切り替え、日常に余暇活動を取り入れる等の工夫をした。調理に参加する男性利用者があったり、女性利用者同士の交流が出来たりと予想出来なかった副産物もあった。

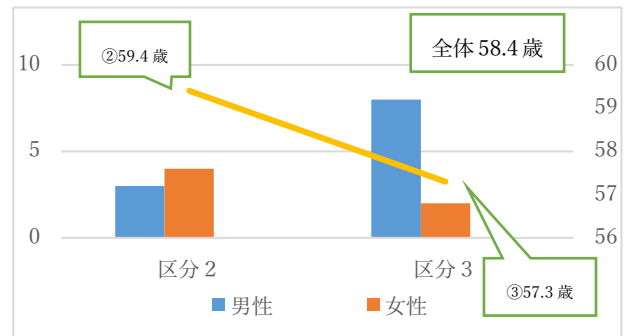
今後も県東部の状況を見ながら利用者の安心・安全を守りたいと思う。今期幸いにも大きな災害には合わなかったものの、年度内の2回の防災訓練において、夜間想定時の訓練では課題を感じた。自主的に

判断をして行動出来る利用者が少なく、夜間の支援体制や利用者同士の助け合いの必要性を強く感じた。

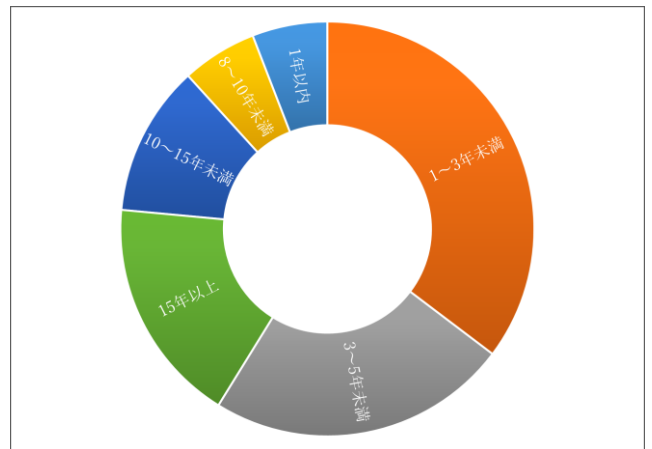
<利用状況>

	H30年	R1年	R2年
定 員	18	20	20
利 用 者 数	17	16	17
入 所 者 数	5	1	1
退 所 者 数	1	2	0

<男女別の入所者数と平均年齢>



<入所期間>



(令和3年3月31日現在)

3. 総括

今年度も内科、歯科、皮膚科、眼科、整形外科等への受診機会が増え、受傷の状況説明から交通手段の確保等において支援を要する利用者が多く、殆どスタッフの同行が必要であった。長期に渡る入院を避け、ホームでの暮らしは守られる反面、社会的経験の乏しさや孤立感・おいてきぼり感を生んでいる。健康や自分らしさをとり戻したいと願う利用者の人生そのものを支えていることを忘れずに、ご本人中心の支援を提供していきたい。

グループホーム はまゆう寮

1. 目標及び評価

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. 個別支援計画などを日中活動先とも共有し、主体性・個別性に配慮する | ○ |
| 2. 新規利用者の受け入れに際し、運営体制の課題整理を行う | △ |
| 3. 災害や感染等への対応についての見直しを行う | ○ |

- ・個々の生活場面での状況について関係機関と共有し、個別性に配慮した支援を行った
- ・新規受け入れは行う事が出来たが、運営体制の課題整理に至らなかった
- ・新型コロナウイルス感染防止という新たな対策を協議・実施した

<職員配置> (令和2年4月1日付)

職種	管理者	サービス管理責任者	生活支援員	世話人
人数	1	1	1	5
勤務形態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非専従/兼務

2. 実績

今年度は4月に新規入居者が1名あり、ピアスタッフにも関わってもらいながら生活に向けての支援を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大が止まらない中、朝の検温確認やアルコール消毒、マスク着用の徹底等、感染予防を常に意識した支援を行った。グループホームでの食事提供も男性女性入れ替え制とし、パーテーションを置いて密にならないよう工夫しながらもコミュニケーションの時間を大事にしてきた。6月末の大雨で土砂災害警戒レベル3が発令され、全員でピット28へ避難、安全を優先した支援を行った。制限が多い中、秋の地域一斉清掃には参加して町内の方々と交流を持つことができた。

<利用状況>

	H30年	R1年	R2年
定員	9	9	9
利用者数	7	8	9
新規入所者数	0	1	1
退所者数	0	0	0

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人数	平均年齢	
男性	5名	47.8歳	51歳
女性	4名	55歳	

<入所期間>

入所期間	人数
1年以内	0
1～3年未満	1名
3～5年未満	2名
5～8年未満	0
8～10年未満	3名
10～15年未満	3名

(令和3年3月31日現在)

3. 総括

今年度は、4月に調子を崩した利用者の入院調整や退院支援をコロナ禍の中で制限が多い中、関係機関と協力しながら行うことができた。服薬管理や金銭管理も安定した生活には必要となるため、一人一人に合わせた支援が今後も必要となっていく。対人関係に悩んだり健康面での不安を抱える利用や単身生活を目標にしている利用者もいるため、支援者間の方向性を確認しながら関係機関と連携して本人の思いに添った支援をしていきたい。

グループホーム カーサ岡の宮

1. 目標及び評価

1. 個別支援計画などを日中活動先とも共有し、主体性・個別性に配慮する	○
2. 新規利用者の受け入れに際し、運営体制の課題整理を行う	△
3. 災害や感染等への対応についての見直しを行う	○

- ・個々の生活場面での状況について関係機関と共有し、個別性に配慮した支援を行った
- ・新規受け入れは行う事が出来たが、運営体制の課題整理に至らなかった
- ・新型コロナウイルス感染防止という新たな対策を協議・実施した

<職員配置> (令和2年4月1日付)

職 種	管理者	サービス 管理責任者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	1	1
勤務形態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/専従

2. 実績

今年度は年末に男性2名の新規入居があった。新型コロナウイルス感染拡大が止まらない中、特に入所の事業所は、個々の生活の場であっても常に共同生活に対する感染予防を意識しなければならず、利用者・支援者共に我慢の生活が続いている。その中でもグループホームで提供する食事はいつもと変わらず温かく美味しい手作りで、パーテーション越しとは言えほっとするひと時となっている。地域の行事についても今年度は自粛が多く、利用者の高齢化もあり、事業所の中での活動にとどまった。

<利用状況>

	H30年	R1年	R2年
定 員	10	10	10
利 用 者 数	6	6	8
新規入所者数	0	0	2
退 所 者 数	1	0	0

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	4名	58.5歳	64歳
女 性	4名	70歳	

<入所期間>

入 所 期 間	人 数
1年以内	2名
1～3年未満	0
3～5年未満	1名
5～8年未満	1名
8～10年未満	1名
10～15年未満	3名

(令和3年3月31日現在)

3. 総括

今年度も一般科への受診同行や、服薬の助言等健康維持に関する支援が多かった。また、新規利用者については、慣れない集団生活への環境変化に対し他機関とも協力しながら時間をかけて思いを聞き、話し合いを重ねてきたが、他の利用者も含めてグループホームとして利用者の望む暮らしをどこまで実現できる体制を作る事が出来るのかは課題でもあり、今後は地域の同業者とも共有を図っていきたい。

グループホーム ふじみ・ふじみⅡ

1. 目標及び評価

個別支援計画に基づき、各利用者の健康面と環境面への支援を行う。○

<職員配置> (令和2年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	世 話 人	看 護 師
人 数	1	2	3	1
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非 専従/兼務

2. 実績

今年度は3名の新規入居者、2名の退所があった。新型コロナウイルス感染拡大が止まらない中、特に入所の事業所は、個々の生活の場であっても常に感染予防を意識しなければならず、検温や消毒を徹底するなど対応をした。また日中活動先が利用中止になったり、外出自粛期間があったりと常とは違う生活を求められた。

<利用状況> (令和3年3月31日現在)

ふじみ

ふじみ	H30年	R1年	R2年
定 員	11	11	11
利 用 者 数	9	8	8
新 規 入 所 者 数	1	1	2
退 所 者 数	1	2	1

ふじみⅡ

ふじみⅡ	H30年	R1年	R2年
定 員	5	5	5
利 用 者 数	5	1	1
新 規 入 所 者 数	0	0	1
退 所 者 数	0	4	1

<男女別の入所者数と平均年齢>

ふじみ

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	4名	54歳	58歳
女 性	4名	62歳	

ふじみⅡ

	人 数	年 齢
女 性	1名	50代

<入所期間>

ふじみ・ふじみⅡ

	ふじみ	ふじみⅡ
入 所 期 間	人 数	人 数
1年以内	2名	1名
1~3年未満	2名	0
3~5年未満	1名	0
5~8年未満	0	0
8~10年未満	0	0
10~15年未満	2名	0
15年以上	1名	0

(令和3年3月31日現在)

3. 総括

新規利用者は今までとは違う生活が始まり、慣れないなか暮らしにくさもあったと思われるが、なるべくグループホームでの生活に慣れていけるように個々に合わせた支援を行った。

利用者も持病を持つ方も多くなり、身体科への受診同行や服薬や食事内容等への助言など健康管理への支援も多行った。

また新規入所者がふじみ2名、ふじみⅡで1名いたため、グループホームに慣れて安心していただけるように配慮を行った。

相談支援事業所

サポートセンターなかせ



1. 目標及び評価

1. 計画相談も含めた個別の相談支援における個々のスキルアップとそのプロセスの具体化 △
2. ピアスタッフとの協働を意識した個別の支援とその仕組みづくり ○
3. 自立支援協議会を活用し、各市町の実情に即した地域づくりへの参画 △

職種	管理者	相談支援 専門員	相談員	ピア スタッフ
人数	1	3	2	2
勤務 形態	常勤/兼 務	常/専従・兼 務	常/非 専従/兼務	非/兼務

<職員配置> (令和2年4月1日付)

2. 実績

(1) 相談支援

平成24年度に計画相談が本格導入されて以降、同関連業務に充てる時間の割合が高くなってきているのは右図支援方法における訪問支援が来所相談と逆の推移となっていることがその影響の表れであり、相談支援事業所の動きとしては年々変化している。その中で本来相談支援の基礎の位置づけである委託相談について、現状の人員・役割等の観点から見直し整理する必要性があった。年度が替わった早い段階から市町担当者と調整を重ね上記のような変化に合わせた形で機能する体制整備を図ることにより、求められるニーズに対してより迅速に対応することを意識した。

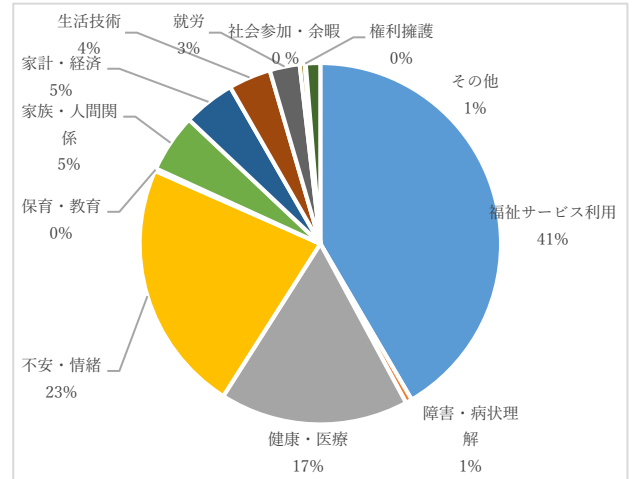
(2) 自立支援協議会

県・圏域・市町単位の自立支援協議会各部署(相談支援・地域移行支援)に参画した。コロナ禍における会議運営が求められる中で例年のような具体的な活動が出来たとは言い難く、次年度以降に繰り越す課題も多くなってしまった。その中で沼津市相談支援部会については、同市の基幹相談支援センターが設置されることに関連した活動を通して、同センターの整備に寄与できるよう具体化していきたい。県地域移行支援部会ピアワーキングは報酬改定に伴う体制加算とも関連をするため、引き続き広い視野をもって先を見越した取り組みを心掛けていきたい。

<支援方法>

年度	訪問	来所	同行	電話	メール	個別 支援 会議	関係 機関	その他	合計
H30	662	324	55	1733	10	122	2007	50	4963
R1	762	266	60	1562	23	125	2377	39	5214
R2	855	280	66	2093	15	89	2792	2	6192

<相談内容内訳>



3. 総括

相談支援事業所のおかれている現状は、法制度の変化の影響もあり前述の通り様々な事業・活動が混在し煩雑化している印象となっている。しかし上記3点の目標についてもそれぞれ関連するものであり、いかに複数の取り組みを連動した形で具体化しその過程を事業所内職員で共有できるかが重要となる。その中で令和1年7月に正式雇用となったピアスタッフについては、業務内容として普及啓発的な活動から当初の目的であった個別支援への関わりに移行していけるか模索した1年でもあった。これについても上記計画相談・地域移行支援と深く関わる。今後もいかなる状況においてもベースとなる目の前の利用者に対する個別支援に主体的・積極的に取り組めるよう、引き続き事業所としての体制整備、更には関係機関とも連携した地域づくりに発展的につなげていきたい。

相談支援事業所

サポートセンターいとう

1. 目標及び評価

1. 当事者の声を形にできるよう自立支援協議会に積極的に関わり地域づくりや体制づくりに貢献する ○
2. 個々の相談支援のスキルアップを図り、相談支援事業所の役割を意識しながら他機関と連携する ○
3. 地域活動支援センターの利用を通して、利用者の生活の幅や考えが広がる機会、安心できる場を創造する ○

<職員配置> (令和2年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生活支援員
人 数	1	2	3
勤務形態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

2. 実績

(1) 相談支援

引き続き熱海市・伊東市より障害者総合支援法による「相談支援事業」「地域活動支援センター事業」の委託を受け活動を行った。前年度に引き続き体制整備に努め物理的に離れてしまう伊東市内の障害者に対して「伊東サテライト（相談・地活）」を伊東市内の公共施設にて開催したり、依頼があれば個別訪問や関係者を交えての面談に参加したりその時々状況に合わせ柔軟に対応した。今年度は感染防止対策等検討し相談支援については事業所への訪問や個別の面談にも細心の注意を払いながら対応した。引き続き新しい生活様式に沿った相談支援事業、地域活動支援センター事業を行い障害のある方の思いに寄り添いながら支援を継続していきたい。

(2) 自立支援協議会

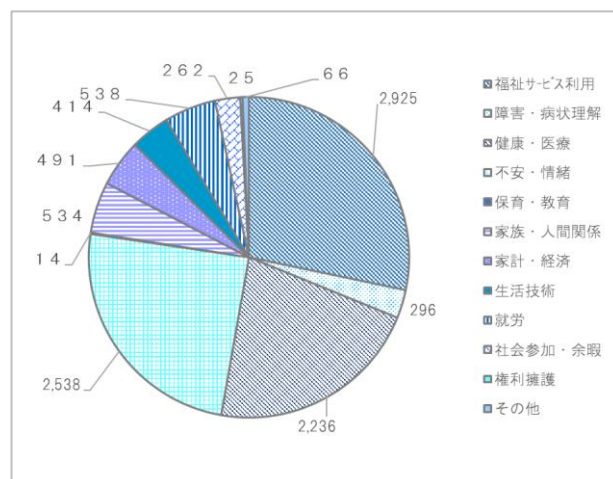
今年度も精神障害部会、地域移行部会の部会長、発達障害ワーキングの担当として協議会に所属。これまで同時開催していた地域移行部会が今年度より単独になった。それぞれの部会での取り組みについて意見収集、方向性を定めたかったが新型コロナ

ウイルスの影響のため十分な検討には至らず、来年度の継続課題として持ち越しとなる。

<支援内容内訳>

年度	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
H30	946	1238	156	2331	9	75	2267	17	7039
R1	831	1036	137	3345	16	71	2841	6	8283
R2	815	824	106	3656	44	40	3219	2	8706

<相談内容内訳> 件数（※重複あり）



3. 総括

今年度は新型コロナウイルスの影響により相談支援事業、地域活動支援センター事業共に例年通りの運営とならず、不透明な事態に不安を抱く利用者も多かったように感じる。事業所としても日々新型コロナウイルスの報道に右往左往しながらも前に進まなければ解決しないことから、「変化」に柔軟に対応しながら事業を展開するよう努めた。令和3年度は福祉サービスの報酬改定があるため、制度や地域のニーズに合わせて対応できるよう心掛けた。

相談支援事業所

サポートセンターほっと

1. 目標及び評価

- 多問題を抱えるクライアントへの支援の充実～事例検討を通して共有と振り返りの機会を持つ～ ○
- 自立支援協議会を意識したソーシャルアクション △

<職員配置> (令和2年4月1日付)

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	4
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従・兼務

2. 実績

(1) 相談支援

昨年度に引き続き富士市から委託を受けている「相談支援事業」と、「計画相談支援」を継続して行っている。新型コロナウイルスの影響で訪問や同行など対面での支援が難しい時期もあったが、お互いの健康状態を確認しながら必要に応じて支援を行うことができた。

昨年に引き続き計画相談の新規依頼を受けることが困難な状態が続いている。

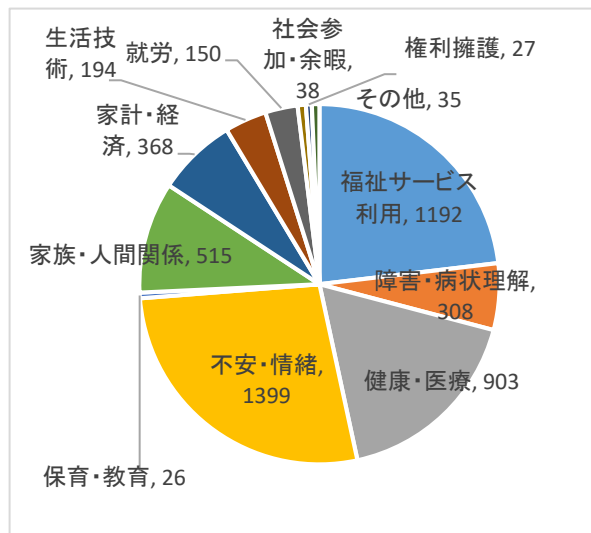
(2) 自立支援協議会

富士圏域の自立支援協議会に参加。余暇・ピアWGのメンバーとして当事者と緊急時対応についてのフローチャートの作成をした。富士市の自立支援協議会に参加。就労部会部会長、連絡調整部会担当、事務局として携わる。就労部会は前年度の準備会からかわり運営に協力した。

<支援内容内訳>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
H 30	730	57	125	2015	5	295	1312	19	4558
R1	365	46	78	1278	0	103	1525	7	3402
R2	157	38	42	1296	1	86	1187	1	2808

<相談内容内訳>



3. 総括

前年度に引き続き、基本相談・計画相談・地域相談支援を実施。また富士圏域と富士市の自立支援協議会にも参加した。新型コロナウイルスの影響で医療機関への訪問に制限がかかったため、例年に比べると入院している方の地域移行支援を含む退院支援が難しい現状があった。また、人数が集まるイベントや勉強会の実施も難しく予定通り行うことができなかった。イベントや勉強会等はリモートで開催するなど感染予防をしながら実施する方法を模索している。しかし、個別支援に関しては感染予防と対面での支援方法が両立しないこともあり、今後どのように支援をしていくか検討課題として残った。

相談支援事業所

サポートセンターひまり

1. 目標及び評価

1. 利用者とあたたかい関係を築き、本人の強みに着目し、主体的に生活できることを支援する ○
2. 三島市基幹相談支援センターの官民共同体制への移行に向けて、相談支援体制の整備への主体的な参画 ○
3. 個別相談支援のスキルアップ、事業所内でのケース検討や振り返り機能の強化のために、グループスーパービジョンの機会の確保 △

＜職員配置＞（令和2年4月1日付）

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	3
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従

2. 実績

(1) 相談支援

令和2年度よりサポートセンターなかせ三島分室から組織改編し、サポートセンターひまりへ名称変更を行った。サービス内容は前年度同様に行っている。今年度は社会状況から来所や訪問して話をすることが難しい時期もあったが、市と相談して感染対策や調整をしながら、可能な限り対面での相談対応を続けてきた。一般相談においては年度当初の新規相談は少なかったが、徐々に求職が困難な状況や家庭内に大変さを抱える当事者や関係者からの相談が増えていった。地域の包括支援センターや行政機関から相談があり、様々な支援機関が連携して一つの家庭を支援し、医療機関やサービス事業所などとも一緒に役割分担をしていくケースも多かった。また計画相談から関わっていて精神科病院に入院されていた方の地域移行支援も開始しており、来年度へ繋がっていくと思われる。

(2) 自立支援協議会

「三島市障がいとくらしを支える協議会」の運営委員として引き続き参加。今年度は地域生活支援拠点プロジェクトを立ち上げ、プロジェクトリーダーとして市内事業所や親の会と共に地域で安心して暮らし続けることができる体制作りに取り組んでいる。

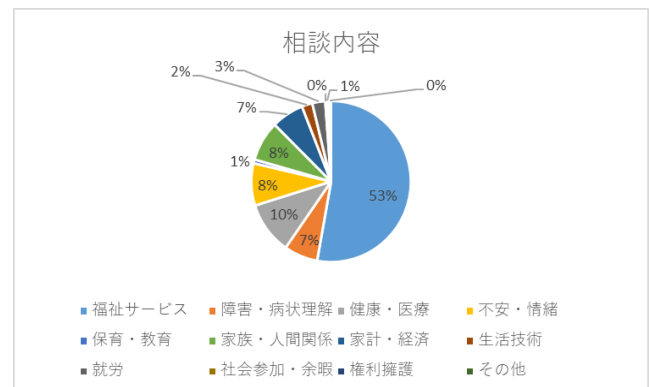
(3) その他

今年度は三島市基幹相談支援センターの官民共同体制作りのための検討会に毎週参加し、三島市と機能強化を委託されている市内相談支援事業所2カ所と共に困難ケースの検討や来年度以降の体制や業務内容について話し合いを行った。

＜支援方法＞

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
H 30	623	228	94	584	11	151	1523	9	3223
R1	680	185	90	654	7	139	1523	4	3282
R2	691	149	72	705	9	80	1717	6	3429

＜相談内容内訳＞



3. 総括

今年度は単独事業所となり、相談支援専門員が専従で配置されたため、一般相談や計画相談での個別ケースの関わりを深め、他機関とチームで対応する複雑なケースの介入や地域の各種会議へ参加して意見を伝えることにも積極的に取り組んできた。

しかし、長期的に関わりのあるケースとの関係構築に改めて難しさを感じたり、個々のスキルアップのための研修参加や事業所単位でのグループスーパービジョンを予定していたが限定的になってしまっている。

来年度はより一層地域での積極的な発信、役割を果たしてだけでなく、基盤となる個別ケースへの関りや相談支援専門員としての質の向上を図れるようにしていきたい。

相談支援事業所

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

1. 当事者のニーズを汲み取りアセスメントや計画相談に反映させ、個別支援の充実を図る。 ○
2. 地域の自立支援協議会活動に参加し、地域づくり、地域移行支援に努める。 △

＜職員配置＞ (令和2年4月1日付)

職種	管理者	相談支援専門員	生活支援員
人数	1	2	3
勤務形態	常/兼務	常/専従	常/非 専従/兼務

2. 実績

(1) 相談支援

センターへの相談は電話・来所・訪問・サテライト相談会等を通して対応した。特に感染症の問題が拡大した今年度はモニタリングや会議についても配慮・工夫が必要であった。次年度も精神的な病気だけではなく身体的な健康面についても、相談支援の中で課題になってくるものと考え。計画相談は引き続き伊豆の国市、伊豆市の福祉サービス利用者に対して行い、対象者も110名超と年々増加しており、より関係機関との連携を密にしつつ、適正な調整能力が求められる。地域移行支援では対応するケースはなかったが、次年度は意欲的に取り組んでいきたいと考える。相談支援の関わりを通して、複数の課題を抱えている方が多いように感じる。本人の病気や障害だけでなく、本人を取り巻く環境に調整が必要な事が多く、対応には行政や医療機関との連携も不可欠であった。

(2) 自立支援協議会

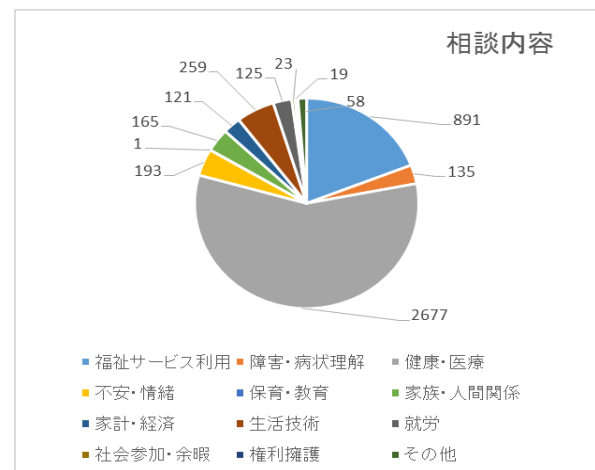
伊豆の国市、伊豆市のそれぞれの自立支援協議会の運営に携わり、地域における障害者支援、啓発活動に貢献している。今年度は伊豆の国市では運営協議委員、精神包括ケアシステム部会長、

地域生活拠点の検討に協力した。伊豆市でも同様に副会長、就労部会、地域生活拠点ワーキンググループのメンバーとして関わり、当事者が地域での生活をどのような形で安心して継続できるかを検討している。コロナ禍ではあるが、感染防止対策を徹底し継続的に検討の場を開催できた。

＜支援内容内訳＞

年度	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
H30	841	1273	121	1460	0	263	2391	15	6364
R1	797	1079	114	1424	0	274	2352	84	6124
R2	783	595	100	1226	1	184	1746	32	4667

＜相談内容内訳＞



3. 総括

事業所の立地上、利用者が気軽に来所できないことから、サテライト相談を有効に使いながら展開した。増え続ける一方の計画相談には、相談支援専門員2名をそれぞれの市担当にすることで効率化を図り対応。また、自立支援協議会を通じ、地域の事業所の方々と顔の見える連携ができるようになり、支援体制の強化に繋がった。地域移行支援については携わる事が出来なかったため、次年度は積極的に取り組みたい。

就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 田方・ゆめワーク

1. 目標及び評価

1. コスト削減及び収益増を意識しながら取り組み、安定した工賃支給を目指す。△
2. 作業工程を細分化し、より多くの利用者が作業参加できる体制を築く。△

新型コロナウイルスの影響を受け、外部からの受注作業が激減し、パンの出張型販売も3密対策の観点から自粛せざるを得ないなど授産収入は大幅に減少。また、近隣に就労系事業所が増え、利用者が分散し、当事業所の利用者も減少していっくだろう将来を見据え、利用者に人気がなく収益性の低い農作業部門を終了し、慢性的に人手不足であったパン作業部門に多くの職員が携われるような体制とした。その上で、パン製造や販売の工程を今まで以上に細分化し、且つ分かりやすく簡単な方法に切り替えることで利用者が取り組みやすい環境を整備。今まで敷居が高いと感じ敬遠していたパン作業部門に多くの利用者が参加し、パンを作る喜びを味わうことができ、就労意欲を高める雰囲気作りができた。

〈 職員配置 〉 (令和2年4月1日付)

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	3名
目標工賃達成指導員	1名
事務員	1名

〈 作業内容 〉

- ①軽作業
箱折、タオルたたみ、梱包作業など
- ②パン製造・販売
- ③館内トイレ清掃、建物周辺の外掃除
- ④施設外就労 (中伊豆ワイナリー除草作業)



2. 実績

年度	H28	H29	H30	R 1	R 2
利用実人数 (人)	32	31	33	25	27
年間開所日数 (日)	251	261	253	247	240
一日の平均利用者数 (人)	14.5	15.4	17.1	14.0	15.4
平均工賃月額 (円) () 内は年間最高額	8,776 (32,288)	8,738 (44,213)	10,017 (51,525)	7,903 (44,550)	10,018 (36,113)
一般就労移行者数 (人)	2	0	1	1	1
(就職先業種)	保養所事務員 老人施設清掃員		老人施設介護職員	ホームセンター園芸職員	公園清掃員

3. 総括

今年度は新型コロナによる影響を受け、事業所としては大きなピンチであったが、職員全員で話し合いを重ね、パン作業部門の構造改革に着手。

分かりやすい作業工程、収支の透明性の確保、職員の負担の分散化など改善でき、結果として利用者と職員の就労意欲の向上につながった。



就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 かのん

1. 目標及び評価

1. 利用者が安心して通所し、自身の強みを生かした生活・就労が出来る支援に取り組む △
2. 各職員のスキルと責任感の向上 ○
3. 仕事の効率化と協働を目指し残業を減らす ◎

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、軽食・喫茶「花のん」では年度通じて作業を全て弁当製造・販売に切り替える等、各作業ともに内容や形態に大きく変化が求められる1年であった。

その中でも利用者・職員の安全と作業確保を第一に皆で協力し合い、安心して通所してもらえる環境を整えてきた。7月には工賃時給額を5円上げ、社会情勢が厳しい中でも各職員が責任をもって利用者への仕事の確保と収益を考えた。今年度は外部研修の参加機会減少のため、事業所内での職員研修を充実させ、毎月のスタッフミーティングの中で研修を実施。イベント参加・開催も出来ず残念ではあったが、その分通常業務の見直し、効率化や役割の分散等に注力する事も出来、職員の残業も1/3程度減少した。

〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	7名
目標工賃達成指導員	1名

〈 作業内容 〉

- ①内職作業
箱折、組立て、縫製、自主製品製作など
- ②喫茶作業
コーヒーショップ やすらぎ、軽食喫茶花のん営業
- ③施設外就労
沼津中央病院清掃・ライフケアセンターよつば清掃



2. 実績

年度	H28	H29	H30	R 1	R 2
利用実人数 (人)	69	64	68	58	55
年間開所日数 (日)	279	278	279	277	278
一日の平均利用者数 (人)	22.7	22.5	20.1	21.5	20.8
平均工賃月額 (円)	6,556	6,719	6,606	7,009	6,823
() 内は年間最高額	(31,460)	(31,460)	(32,873)	(33,880)	(25,610)
一般就労移行者数 (人)	1	3	6	0	2
(就職先業種)	飲食	高齢者施設 製造・農業	IT・清掃・小売 高齢者施設・ 小売・製造		農業 製造

3. 総括

今年度は、通常の形での企業実習や見学、地域交流などが難しく、出来ないことに多く目が向き、実際事業所内部のことで精一杯であった。次年度はその中で気づきや皆で協力し守り、変化させてきた作業、団結力を糧に、地域・社会に前向きに目を向け、出来る活動を増やしていく1年にしていきたい。



就労継続支援B型支援事業

ワークショップまごころ



1. 目標及び評価

1. 職員間の業務の引継ぎ及び連携を丁寧に行い、利用者へ安定した支援を行う ◎
2. 利用者の希望と適性をみながら厨房作業の工夫と充実を図る △

職員3名の入れ替わりがあったが、時間の経過と共に職員の業務への取り組みも安定し、利用者との良好な関係作りも進み、雰囲気の良い環境となっている。厨房作業においては作業工程をレベル別に可視化したのが、新規利用希望者が無く利用開始時支援の検証には至らなかった。今後も引き続き厨房内作業支援の工夫を図り、厨房作業への定着を模索していく。

〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	5名
目標工賃達成指導員	1名
事務員	0名

〈 作業内容 〉

- ① 軽作業
箱折、みかんネット加工、チラシ組み
- ② ぷりん・ジェラートの製造・販売
- ③ 古紙回収
- ④ 農作業



2. 実績

年度	H28	H29	H30	R 1	R 2
利用実人数 (人)	36	37	37	38	33
年間開所日数 (日)	305	308	293	290	285
一日の平均利用者数 (人)	12.2	15.1	15.8	16.3	12.2
平均工賃月額 (円)	5,640	6,570	7,669	7,485	7,069
() 内は年間最高額	(17,650)	(16,050)	(19,560)	(19,560)	(20,340)
一般就労移行者数 (人)	2	3	1	4	1
(就職先業種)	事 務 ホテル清掃	老人介護 施設清掃 食品製造	部品製造	食品製造 事 務 ビル清掃 食品製造販売	商品陳列

3. 総括



新型コロナウイルスに振り回される1年であった。休業や時間短縮の他、販売部門については現在も店内飲食を再開しておらず、安心してご利用いただけるよう日々模索しながら事業継続に努めた。他法人のグループホームより通所していた4名が感染防止の為通所中止を余儀なくされ、大幅収益減となった上、新規利用希望者も少なかった。次年度は新規利用者受け入れと販路拡大に力を入れ、経営改善を目指す。

地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

コロナ禍において、感染対策防止を徹底した上で、可能な範囲での活動を工夫しながら行い、利用者の方が充実した一日を過ごせるように取り組む。 ○

〈プログラム内容〉

趣味・創作活動、ラジオ体操、ウォーキング、料理教室、買い物ツアー、エコキャップ清掃、映画鑑賞
季節行事（お花見、納涼会）、健康講話、防災訓練、
地域交流活動（ボランティア、ピアスタッフとの交流）、福祉村清掃 など

2. 実績

年度	H28	H29	H30	R 1	R 2
利用実人数	77	71	69	61	31
年間開所日数	242	246	238	238	241
一日の平均利用者数	12.8	12.5	11.6	9.6	4.6

3. 総括

今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、利用者が激減した。感染防止の観点から、飲食を伴うようなイベントや喫茶店事業を控えた為、利用者の多くが残念がっていた。反面、少人数になったことで個別に交流できる時間も増え、今後の地域活動支援センターの在り方について当事者主体で話し合えるきっかけにもなったと感じる。



地域活動支援センター事業

サポートセンターいとう

1. 目標及び評価

地域活動支援センターの利用を通して、利用者の生活の幅や考えが広がる機会、安心できる場を創造する ○

〈プログラム内容〉

趣味・創作活動（塗り絵、タブレットでゲーム、YouTube で動画閲覧、カードゲーム、新聞・読書）
料理教室、スポーツ（ウォーキング、卓球）、地域交流活動（ピアスタッフとの交流）、DVD鑑賞会
季節行事（初詣、花見）

2. 実績 ※サテライト伊東（月2回実施）

年度	H28	H29	H30	R 1	R 2
利用実人数		103	99	76	74
年間開所日数		241	241	235	226
一日の平均利用者数		9.6	9.8	10.5	7.8

3. 総括

今年度は新型コロナウイルスの影響から臨時休館、プログラムの制限を行う等、事業の運営に様々な支障が出た一年であった。その中でも感染防止対策に努めながら利用者が安心して過ごせるよう配慮した。プログラムも昨年度から実施しているピアスタッフとの交流を月に一度行ったり、サテライト伊東にてピア連絡会を実施する中で「ピアサポート」の要素も活動の中で実施できた。

IV 地域貢献活動

(1) 精神保健相談

事業所別	回数	内容	担当	主催又は後援
サポートセンターゆめワーク	年 6 回	伊豆市サテライト相談会	池田 友美	伊豆市
サポートセンターなかせ	年 12 回	沼津市障害者専門相談会	内藤 治子	沼津市社会福祉協議会

(2) 講演開催状況

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
10月13日	城東保健福祉エリア 複合棟	静岡市ピアサポート研修	鈴木 伸二 石川 淳 山崎 将展	静岡市自立支援協議会 地域移行支援部会
2月24日	オンライン	静岡市ピアサポート勉強会 フォローアップ活動	石川 淳 山崎 将展	静岡市自立支援協議会 地域移行支援部会

(3) 公的機関の医療・福祉活動への協力

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	鈴木 伸二
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木 大輔
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調査員	伊豆の国市	池田 友美 小山 千菜 室山 美希
伊豆の国市障がい者計画等策定会議	委員	伊豆の国市	青木 大輔
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	内藤 治子
長泉町障害者支援区分認定調査	調査員	長泉町	新庄 裕那
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議委員・運営委員	伊豆の国市	青木 大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部会長	伊豆の国市	小山 千菜
伊豆市地域自立支援協議会	副会長	伊豆市	青木 大輔
富士市障害者自立支援協議会就労部会	部会長	富士市	田尻 ゆき
伊東市障害支援区分判定等審査会	審査委員	伊東市	鈴木 伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津 崇史
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津 崇史
清水町障害支援区分認定審査会	審査委員	清水町	勝又 美智子
沼津市障害者自立支援協議会	副会長	沼津市	牛島 聖美
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部会長	沼津市	鈴木 伸二
裾野市障害支援区分判定審査会	審査委員	裾野市	杉山 智子
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	東部保健所	鈴木 伸二

(4) 実習受託

区分	委託施設・機関等	実習担当
サポートセンターいとう	聖徳大学通信教育部心理・福祉学部社会福祉学科	石田 由貴
就労支援事業所かのん	静岡福祉大学 社会福祉学部福祉心理学科	杉山 智子
ワークショップまごころ	静岡福祉大学 社会福祉学部医療福祉学科	勝又 美智子

(5) 大学・看護学校への講師派遣

区 分	施 設 名	講 師
田方・ゆめワーク サポートセンターなかせ	沼津市立看護専門学校	青木 大輔 山下 圭美

(5) 受託事業

所 属	受 託 事 業 名	担 当 者
社会復帰事業部	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業	牛島聖美
就労支援事業所	静岡県精神障害者雇用推進アドバイザー業務	青木 大輔 長谷川 真美 杉山 智子 鈴木 伸二 望月 紀子 田尻 ゆき 新田 怜小 渡邊 修宏 室山 美希

V 教育研修

業務管理及び研修出張

年月日	内 容	氏 名
R2. 6. 15	静岡県障害者支援区分認定調査員研修	佐久間美希
R2. 7. 30	精神保健福祉業務基礎研修会	町田比佐美
R2. 7. 31	静岡県自立支援協議会地域移行部会研修・ピア WG	鈴木伸二 山崎将展
R2. 8. 31	静岡県自立支援協議会地域移行部会事務局会議	鈴木伸二
R2. 9. 9	静岡県安全運転管理者講習会	青木大輔
R2. 9. 14, 10. 26	新型コロナウイルス感染対策講座	長谷川真美 水野恵
R2. 9. 30	静岡県地域移行部会ピア WG	鈴木伸二 山崎将展 石川淳
R2. 10. 4	静岡県ピア交流会	鈴木伸二 山下圭美 山崎将展 石川淳
R2. 10. 21	食品衛生責任者衛生管理講習会	大嶽哲也
R2. 10. 23	静岡県自立支援協議会地域移行部会	鈴木伸二 秋津崇史
R2. 12. 3, 8	静岡県サービス管理責任者等更新研修	川口美紀 田尻ゆき 畠山玲奈
R2. 12. 7	障害児・者福祉サービス事業者説明会	牛島聖美 勝又美智子 青木大輔 長谷川真美 鈴木伸二 杉山智子 秋津崇史 水野恵 青木絵里
R3. 1. 15 (計3回)	成年後見制度普及啓発のための勉強会	室山美希
R3. 2. 27 (計2回)	障害者ピアサポーター研修を担う講師・ファシリテーター養成研修	鈴木伸二
R3. 3. 10	高次脳機能障害者支援従事者研修及び支援ネットワーク連絡会議	秋津崇史

VI 令和3年度 事業計画

1. 事業部全体

運営方針（事業部）

新型コロナウイルス感染拡大により日常の変化を余儀なくされた利用者の生活、事業所の運営から学び、新しい生活様式に対する支援の安定を図る。

また、限られた人材でより良いサービス提供を行うため、職員1人1人が利用者支援のチームとして役割を意識し、地域との協働に努める。

重点目標

- ①利用者の特性や希望を踏まえ、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、総合的なサービスを提供
- ②障害福祉サービス等報酬改定に伴う各障害福祉サービス運営の見直しと適正化の検討
- ③職員のスキルアップと法人内外で活躍できる中核人材の育成

(1) 相談支援・地域活動支援センター事業

- ①主に計画相談におけるコスト意識を前提とした制度理解をし、目の前の個別ケースから課題意識を持った関わりを行い、個々の相談支援専門員のスキルアップを目指す。
- ②基幹相談支援センター等、各市町単位の動向を意識し各相談支援専門員が積極的・主体的に圏域・地域の中核を担う人材として自立支援協議会等へ参画する。
- ③各相談支援専門員がピアサポーターとの協働を意識し、医療機関との連携が必須となる地域移行支援の活用を通して、法人内の人材育成を目的とした専門職種での共有をしていく。
- ④地域活動支援センターにおいては、コロナ禍で新たな生活様式が求められる中、憩いの場及び仲間づくりの場などの機能が果たせるよう創意工夫し、ピア活動やボランティア育成にも努めていく。

(2) グループホーム（共同生活援助事業）

- ①関係機関と密な連携を図り、必要な社会資源をスムーズに利用できるように努め、利用者の主体性・個別性に配慮した支援を実施する。
- ②待機者の多い事業所については、待機者の現状把握に努める。必要に応じて関係機関と連携し、他事業所の利用の可能性も検討することによって、待機期間がなるべく長期化しないように意識して取り組む。その際には当事者不在にならぬよう留意する。
- ③利用が進まない事業所については、当事者や関係機関に事業所の持つ機能の理解を図りながら、地域の持つニーズを査定しつつ役割の可能性を柔軟に試行する。
- ④地域清掃や防災訓練などの地域行事に参加して地域住民との役割を担う。また、近隣住民と交流を深め、精神障害者や精神保健福祉に対する理解を図る。災害等の有事の際には地域において互助・共助を意識し活動をする。

(3) 就労支援事業（B型）

- ①関係機関と連携を図りながら利用者の確保に努め、且つ利用者が安定して利用継続できるように個別の特性に応じた支援体制を築く。
- ②職員は研修参加や事業所における勉強会を通じて自己研鑽に励み、障害特性の理解を深めるとともに虐待防止に努める。
- ③地域の企業に協力を頂き、施設外就労や施設外支援を活用し、一般就労支援に取り組む。また、就労後の定着支援も積極的に行う。
- ④地域自立支援協議会等に参画し、障害者雇用に関する普及啓発及び理解ある一般企業の開拓に取り組む。

2. 各事業所 事業目標

【共同生活援助】

グループホーム コーポ狩野

- ①利用者の主体性や個別性を尊重し、希望が実現できるよう個々のスキルアップを図り支援に取り組む
- ②地域や関係機関に対し開かれたグループホームとして信頼関係を形成し、事業所の役割や機能の理解を促進する
- ③感染症や災害への対策を徹底し、利用者スタッフ自身の健康と暮らしを守る

グループホーム はまゆう寮・カーサ岡の宮

- ①利用者の個別性に配慮し、関係機関との連携を密に図っていく
- ②スタッフそれぞれの役割を整理し、常に情報共有ができる体制を整備する
- ③感染や災害対策訓練を地域住民との協働も視野に実施する

ふじみ・ふじみⅡ

- ①個別支援計画に基づき、各利用者の健康面と環境面への支援を行う。
- ②緊急時の対応の見直しを行う。

【相談支援事業

・地域活動支援センター】

サポートセンターなかせ

- ①委託・特定・一般、それぞれの位置づけ・役割を意識し、丁寧な個別支援を継続する
- ②ピアスタッフとの協働を視野に入れた制度理解をし、常にコスト意識をもつ
- ③基幹相談支援センター・自立支援協議会等、地域の動きを意識し主体的に参画していく

サポートセンターいとう

- ①報酬改定に伴い相談支援事業の更なる充実と質の高い相談支援が展開できるよう努める
- ②新しい生活様式を意識しながら、地域活動支援センターを通して仲間（ピア）づくり、生活の学びの機会を提供し社会とのつながりが持てるよう関わる
- ③職員同士のコミュニケーションを図り、それぞれの役割や強みを意識しながら日々の支援に活かす

サポートセンターほっと

- ①潜在的な問題を抱えたケースへの緊急時に備えた支援の充実のため、多機関との連携を含めた支援の再構築
- ②圏域自立支援協議会への参加、精神科医療機関との連携強化を行い、地域移行の促進を図る
- ③事業所内外での定期的なケース検討や地域事業所間での勉強会を通し、個別相談支援のスキルアップを目指す

サポートセンターひまり

- ①利用者とあたたかい関係を築き、本人の強みに着目し、主体的に生活できることを支援する
- ②三島市基幹相談センターの官民共同体制への主体的な参画

サポートセンターゆめワーク

(相談支援事業)

- ①当事者のニーズを汲み取り計画相談に反映させ、個別支援の充実を図るとともに、地域課題としての意識を持った取り組みができるよう個々のスキルアップを目指す。
 - ②ピアサポーターとの協働を意識しながら、各医療機関と連携し、地域移行支援に取り組む。
- (地域活動支援センター事業)
- ①コロナ禍において新しい生活様式が求められる中、感染防止に努めつつ、憩いの場の機能が果たせるよう創意工夫する。
 - ②ピア活動やボランティアとの活動を通じて、地域啓発に努める。
 - ③利用者さんが楽しめ、充実した一日を過ごせるよう積極的に関わっていく。

【就労継続支援B型】

田方・ゆめワーク

- ①職員全員が収支への意識を持ち、具体的にコスト削減に取り組み、安定した工賃支給を目指す。
- ②パン部門の作業工程を細分化し、より多くの利用者が作業参加することで、利用者が遣り甲斐と責任を持って取り組めるよう体制を築く。

かのん

- ①関係機関や企業と連携し、一般就労への支援と職場定着支援を強化する
- ②職員のスキル向上を目指し、職場内研修の実施と外部研修への参加を増やす
- ③利用者・事業所がさらに地域に根差した活動の出来る体制を作る

ワークショップまごころ

- ①利用者1人1人の能力や特性を理解し、作業を通して生きがいを感じていただけるよう支援する。
- ②工賃アップを目指し、クオーレにおける対面販売以外の販路拡大を進める。